

コマツナの*Fusarium*関連属菌による土壌病害防除法に対する評価法の確立

【背景と目的】

近年、江東地域のコマツナにおいて、*Fusarium*関連属菌による生育不良が発生し、生産に大きな被害を与えている。そこで、分子生物学的手法を用いて土壌中の菌密度を測定する方法を検討し、発病及び各種防除法の有効性との関連性を明らかにすることで、発病状況を考慮した防除法の評価法を確立する。

【研究概要】

- (1) 分子生物学的手法による菌密度測定方法の検討
- (2) 生物検定による発病と菌密度の関連性
- (3) 各種防除法の効果と菌密度の関連性